

山行報告



西穂高岳

日 時：9月18日（土）～20日（月・祝） 参加者：3名

参加者：L 砂川 松下 高橋

行動記録：9月18日 JR姫路駅 17:00→ひるがの高原SA 23:30

9月19日 起床 5:00 鍋平駐車場 7:00→道の駅→スーパー 11:00→鍋平駐車場
11:30→しらかば平駅 12:00→西穂高口駅登山開始 12:20～西穂山荘
13:35 就寝 19:00

9月20日 起床 6:00 出発 7:30～独標 8:30～西穂高岳 10:25—10:40～独標
11:55～西穂山荘 12:45—14:00→西穂高口駅 15:00→しらかば平駅
16:00→温泉 17:00→帰路

穂高の岩峰を歩いて

松下

2009年の年越しから、県連・救助隊は奥穂の遭難事故の一報に奔走されていた。渦中にいたのは昨年、中級登山学校でお世話になった講師の方々だった。当会でも救助隊員として3名登録したが、会として出勤の機会を得られず、やっと日程を確保した頃、県連奥穂救助隊あがての取り組みが実を結んだかのように、降雪前に最後の行方不明者が発見された。それでも、会として何か手伝えればと、最終回収活動中の現地へ赴いた。穂高連峰は谷が鋭く、人を寄せつけない感じである。チビ谷上部のフィックスロープは回収出来なかったと聞いた。空いた日程で小雨の西穂高岳までの岩峰群を歩きながら会の救助体制を思った。事故を起こした会は見るに堪えない感があるし、成行きによっては会の存続

にまで関わる。奥穂の遭難事故を他山の石として、安全登山や会の救助体制を考えると、安全対策として諸々の学習やレスキュー訓練、救助体制については費用の面からも会の指針に沿う対応が出来る様に、今この時に取り組んでおくことが必要かと思う。楽しい山行の裏打ちを確かなものにしておきたいと思うから。



善防山～笠松山

日 時：9月26日(日) 天候 快晴、 参加者数：12名

参加者：L 西村 荒尾 上田 狩集 瀬尾 武田 中嶋 長谷川 平山 森川
山本 渡邊

行動記録：善防公民館 9:05～善防山登山口 9:10～善防山山頂 10:05 - 10:10～吊り橋 10:35～
笠松山頂 11:15 - 11:40～古法華自然公園 12:10～大柳ダム 12:25～馬の背 12:40 -
12:45～笠松山下山口 13:30

加西アルプス 善防山～笠松山

荒尾

少し冷やりとした気持ちの良い青空に気を取られ、時間を間違えて我が家を出る。予想通り宝殿駅には誰もいない。近くのコンビニで新聞を買って時間を潰す。8:24 宝殿駅出発、善防公民館着 8:47 何時もガラガラ(山本氏談)の駐車場が今日は満杯、近くの人に尋ねると今日は町内会総出の一斉清掃日とか。皆リッチですね清掃活動に車で来るとは！足が泣きますよ……ストレッチ後、下里前バス停目指し出発。親子並んで山の字形をした前山と善防山が見えるとすぐバス停だ。今日は風もなく前山と善防山の姿が野田池に映る。今日の楽しいハイキングを約束してくれている様だ。バス停横の鬱蒼とした雑

る。230mの前山は気付かずにいつの間にか通過。岩場を抜け雑木林の中へ。気付くと第1頂上善防山 251mの標識が目に入る 10:05着。山頂は三角点も無く木々が茂り展望はない僅かに木立の合い間から、加古川の工場群が見える。頂上直下の大岩を巻いて 10:27分岐、吊り橋 10:34 ゆらゆら揺れる橋をこわごわ渡ると第1の鎖場に。これを登り笠松山の肩へ 11:06 素晴らしい加西ミニアルプスの景観が広がる。正面の岩にまだ新しい達磨の石仏が刻まれている。登山道を目で追っていくと三角形をした頂上に展望台を頂いた笠松山見える。右に採石場跡の断崖絶壁、左に古法華の屋根が見える天候にも恵まれ素晴らしい眺め。一息入れ頂上直下の鎖場へ挑む。先の鎖場より傾斜がきつく長い、登りきるとすぐ笠松山：244.4mの頂上に立つ 11:17 山頂は立派な展望台がそびえ、360度の展望ここで昼食、古法華自然公園までの道は一気に下る。古法華着 12:11 七福神と如来像が出迎えてくれる。石仏の中の散策道を通り、大柳ダムが見えたらまた元のハイキング道に戻り馬の背へ 12:42 岩場をバックに写真撮影。その後は萩、桔梗の花を愛でながら進むとあっという間に駐車場へ 13:39 季節が早く今回はヨソゴの赤い実やリュウノウギクは見る事が出来ませんでした。が素晴らしい加西の景色と岩歩きを楽しんで来ました。



木林の中のハイキング道に入ると、こんどは真っ赤な彼岸花のお迎え。今日はお彼岸の中日を過ぎた初めての日曜日。雑木林と竹林を通り 9:36 150mの善防山東尾根の肩。ヒョロヒョロの松の木が目につくと岩尾根に出

六甲石楠花山登山

日 時：10月3日(日) 参加者：8名

参加者：L 須増 金島 切貫 塩津 竹内 藤原 山本 和田

行動記録：JR 新神戸駅 9:20～市ヶ原 10:10 - 10:15～地蔵谷出 10:30～森林植物園東口 11:10
- 11:20～西六甲ドライブウェイ 12:10～展望台 12:35 - 13:05～石楠花山 13:25 -
13:30～炭ヶ谷道入口 13:45～谷上南町 14:25～神戸電鉄谷上駅 14:40

トエンティクロスから石楠花山へ

昼頃から雨という予報を気にしながら、新神戸駅を出発した。市ヶ原までは、人が多く賑わっていた。摩耶山への3つの分岐を過ぎると、トエンティクロス(和名：二十渉)が始まる。感じのいい名で、どんな所か楽しみにしていた。浅くて水がよく澄んだ生田川の兩岸を、行ったり来たりしながら、徐々に登って行った。昔は20渉ほどしていたそうだが、今ではよく整備され、5渉で通過した。森林植物園東口で小休止後、しばらくすると、とうとう雨が大きくなり、雨具を着けた。静かな山道で、時折小鳥のさえずりが聞こえ、足元には細くて長い茎に、赤い小さな花をいっぱい付けたミズヒキが最盛期だった。

布引谷出合で生田川から反れ、黄蓮谷へ入って行った。この地名は居留外国人ウォーレンの名から付いたそう。暗い谷で誰にも会わない。8人一緒だから行けるが、気味が悪く、黙々と歩いた。西六甲ドライブウェイを横切り、階段状になったかなりきつい坂を登って行くと、だんだん風が出てくるので、頂上には、食事のできる東屋はあるだろうか、皆で心配した。石楠花山の手前のピークで、先頭から「屋根あるでー」の声がして大喜び、ほっとした。1階に長いす、2階が展望台になった建物があったのだ。

昼食後、道なりに進むと、どんどん下っていき、目指す頂上にたどり着かない。地図で

藤原



は石楠花山まで尾根伝いに約250m。おかしいことに気づき、カーブのあたりで左へ登っている道があったので、行ってみると石楠花山への矢印があり、その先は分岐に、上り、下り、カーブと遠かった。頂上は平坦で木々に囲まれ展望はきかず、道はまだ先へ続いていた。おそらく展望台に通じていると思われたが、迷うと困るので、確かめずに来た道を引き返した。地図にすべて道が載っているものと思っていたが、そうではなく、ない道に行くこともある。道迷いはこんな所から起きる。いい体験をした。谷上駅までは炭ヶ谷を通り、そこは小石がゴロゴロしている長い長い下り坂だった。普段なら歩きにくい道だが、雨降りは、こんな道のほうが、ぬかるむこともなく、逆に歩きやすかった。

参加者8人で皆の話がよく聞こえ、まとまりやすく楽しい山行だった。リーダーさんはじめ皆さんありがとう。

ひとくち感想 石楠花山

S・C・O・2

次週に控えた北アルプス穂高方面への山行のボッカトレーニングにと急遽参加しました。此处が「石楠花山」の頂上と確信出来なかったのが、少々残念でしたが、8名のこじんまりしたグループで、とても気楽に楽しく歩けた気がします。翌日は、久々の山行で雨の中いつもより重いリュックだったので、体ガタガタでした。

有馬富士登山・麒麟ビール工場見学

日 時：10月7日(木) 参加者数12名

参加者：L 渡邊 俊明 荒尾 内海 切貫 佐々木 澤田(卓) 澤田(律) 荘所
中嶋 藤田 水上 和田

行動記録：宝殿駅北口 8:28～有馬富士パークセンター 9:30 - 10:08～福島大池分岐 10:20～
山頂広場 10:50 - 10:55～有馬富士山頂 11:05 - 11:15～折返点 11:45～(中間ビ-
クにて昼食) 12:00 - 12:18～パークセンター 13:00 - 13:30～麒麟ビール 13:55～工場
見学 15:10～現地解散 15:30

有馬富士と麒麟ビール工場見学に参加して

中嶋

10月7日(木) JR宝殿駅前より自家用車3台に分乗した12名が、高速山陽道経由で一路三田市を目指し、県立有馬富士公園駐車場に9:50 到着した。秋晴の良い天気でした。ストレッチ後、渡邊さんを先頭に出発。公園内にある奈良時代の僧行基が開いたといわれる福島大池を半周してから登山道に入る。木立の中、道は広く良く整備されており2～3人が並んで話しながら歩く。40分程で頂上広場に到着。休憩後さらに上の頂上(374m)に登る。先着の登山者が4名、写真等を撮っていた。木々の間から公園やその



先の三田市街が展望できる。ここで集合写真を撮った後、これより尾根筋を北に進むとアップダウンのかなりキツイ道が続いていた。前半のハイキング気分も吹っ飛び必死で歩く。暫く行った後、特別な展望も無いので引き返し途中で昼食を取り下山する。福島大池の残り半周していると古い藁葺きの休憩所があり、池では多くのカモが泳いでいた。

小学生や幼稚園の団体に会う“こんにちは”と挨拶を交わす。橋の下では多くのカメラマンが野鳥の写真を撮っているが、紅葉にはまだ早かった。13:00 車に戻り汗をかいいたので着替えを済ます。その後、神戸市北区にある麒麟ビール工場に行くと言約していた14:10 より工場見学がガイドさんの説明付きであった。従業員は450名、近畿圏内に製造した商品を供給しているとのことである。一般客も2名私達と同行していた。見学始めに原料の麦芽、ホップ、副原料の米、コーンスターチを手に取り説明を聞く。ビデオで仕込み、発酵、貯蔵、ろ過、缶詰め等の解説を見た後、工場内の1コースでの見学コースにて操業中の缶詰行程、休止中のビン詰め行程を見学する。ビールビンはラミネート包装で軽量化していることが麒麟の特色だと説明を受ける。またビン詰め温度は常温だと説明を聞く。その後、楽しみの試飲会があり、私も喉が渇いていたので一番絞りつつまみで乾杯、おいに盛り上がりました。温度も適温の6℃で非常にうまかったので見学時間と合わせた1時間が短く感じられた。売店でビールの残留品を含んだチョコレート、菓子等の試食、土産品の買い物後、15:30 現地解散となり、ほろ酔い気分で帰宅しました。運転のためアルコール試飲できなかった3名の運転担当者様、お疲れ様でした。